

本書の使い方

本書は、いずれ起こるかもしれない様々な災害に対し、事前に備えることを目的として作成しました。予測不可能な災害の被害を最小限にとどめるため、常日ごろから内容に目を通しておきましょう。

【本書の特徴】

本書は、災害時に持ち運びができるように冊子型として作成しました。
緊急時に持ち出してご利用ください。

索引

本書の使い方、索引	1
災害に関する情報、災害に備えて	2
風水害対策、洪水に備えて、土砂災害について	3・4
避難行動判定フロー、災害時のペットとの同行避難について	5・6
平成30年7月豪雨 町内の被害状況	7・8
様々な防災情報の取得方法	9・10
地震対策、地域の揺れやすさマップ	11・12
指定避難所・指定緊急避難場所とは?	13
熊野町索引図	14
熊野町詳細図、防災ハザードマップ	15~36
非常時持出品の準備&チェック	37
わが家の「防災・緊急情報」メモ	38

災害に関する情報

警戒レベル	状況	とるべき行動	避難情報等
5	災害発生又は切迫	命の危険 直ちに安全確保	緊急安全確保
<警戒レベル4までに必ず避難>			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・洪水注意報
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報

※外に出ることが危険な場合は、自宅の2階などの屋内で安全を確保しましょう。

災害に備えて

どう避難すればいいの?

大雨・洪水の時はこうして避難

●足元に注意

水中の溝等に注意し、長い棒を杖代わりにして確認しましょう。道路は出来るだけ真ん中を歩きましょう。



●ロープにつながって

小さい子供などは大人とロープで体をつなぎましょう。



●子供やお年寄りを安全に

警戒レベル3高齢者等避難で早めの避難をしましょう。



●車は使わず、歩いて避難

あらかじめ決めておいた、よく知っている避難コースを通りましょう。



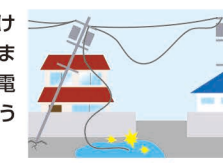
●ひざ上まで水につかると歩きにくくなります。

洪水の中での避難はできるだけ避けましょう。歩ける水の深さは50cm程度が限度です。



●危険なところは避ける

崩れ、狭い道、がけや川のそばは避けましょう。垂れ下がった電線には近づかないようにしましょう。



その他避難の時に注意すべきこと

●家に避難先、安否状況のメモを残す場合には、防犯対策をしっかりとっておきましょう。



避難するときの服装のポイント

- ヘルメット等
- 長そで、長ズボン
- 長靴は水が入るとかえって動きづらくなるので×、水中でも脱げにくく歩きやすいひも靴は○
- 軍手、手袋
- 非常持ち出し袋